

令和 8 年度 仙台 BOSAI-TECH イノベーション創出促進事業  
自治体提供課題詳細

タイトル	新たな通信技術を活用した同報系情報提供システムの実現
提供自治体名	宮城県仙台市
掲載期限	令和 8 年 8 月 21 日まで

1. 解決したい課題の背景

- ・ 仙台市では、災害時の住民への重要な情報提供手段として、防災行政無線による同報系情報提供システムを活用している。これまで、自営無線回線による整備・維持管理を行ってきたが、危機の経年劣化により更新が必要となっている。
- ・ 現在の自営無線回線を活用した仕組みは、更新や整備にかかる費用が高額な点が課題となっている。更新にあたり、よりコストを軽減できる新たな技術・サービスを検討したい。
- ・ テレビ放送波を活用した地デジ IPDC 等の技術については、過去の BOSAI-TECH での実証により、技術的な基本動作や有用性はすでに検証済みである。そのため、一歩踏み込んだ社会実装に向けた、より具体的な検討を求めている。

2. 実現したいこと

- ・ 自営無線回線で実現していた以下の対災害性機能を維持しながら、従来のシステムに比べて更新・整備費用を安価に抑えられる仕組みの社会実装を実現したい。
  - 市の災害対策本部から、Push 型の情報提供が可能なこと
  - 一般の通信との災害時の輻輳に対して優位であること
  - 戸別受信装置等を用いる場合には、操作が簡便または不要であること
  - 設備は 365 日、24 時間稼働可能であるとともに冗長化されていること
- ・ 上記システムは、災害時以外にも平常時の運用に対し拡張性があることが望ましい。

3. 想定している技術（こだわらない場合はその旨を記載）

- ・ IPDC
  - ※IPDC の提案は、これまでの実証実験等を通じて整理された課題、基盤整備主体や費用負担スキーム、事業成立条件、放送事業者運用との整合、ビジネスとしての継続性整理について、関係者との打ち合わせによる課題の整理解決を図ること。
- ・ 上記にこだわるものではないが、携帯電話回線以外の回線を用いることが望ましい。

4. 希望する実証時期・実証場所（現時点の想定）

- ・ 令和8年1月頃、仙台市内での実証を希望する。
- ・ 実証期間を通じて、課題の整理や費用算定の条件を整理し、社会実装に向けた具体的な初期導入費用や継続運用コスト（概算費用）の算出を行うこと。

5. その他制約事項・補足事項（関連ホームページ等）

- ・ 仙台市の同報系情報提供システム：仙台市津波情報伝達システム  
(<https://www.city.sendai.jp/okyutaisaku/kurashi/anzen/saigaitaisaku/jishintsunami/dentatsu.html>)
- ・ IPDC：総務省消防庁 住民への災害情報伝達手段  
(<https://www.fdma.go.jp/mission/prepare/transmission/transmission001.html>)
- ・ 2025年度 事業化・社会実装プログラム：同報系情報提供システムに関する通信方式  
(<https://sendai-bosai-tech.jp/news/detail/---id-349.html>)